—丸の内病院 広報—

まるのうち

No.34
2016年3月31日
発行

丸の内病院開設70周年記念病院祭「市民とともに」

320列面検出器CT
Aquilion ONE Vision Edition導入……2
終夜睡眠ポリグラフィー(PSG)……4
職場のおしごと紹介
　認知症看護認定看護師について……5
　認知症リエゾンチームの紹介……6
春のレシピ……7
インフォメーションギャラリー……8

病　院　の　理　念

1. 私たちは、患者さん中心の医療を地域の医療機関と協力し推進いたします。
2. 高度の専門技術により、地域の皆さまの疾病管理と疾病予防に努力いたします。
3. 公益性を有する社会医療法人にふさわしい診療活動に努めます。

理念に基づく基本方針

- 私たちは、患者さんの一人ひとりの要望を尊重し、信頼関係に基づいた医療を提供いたします。
- 私たちは、地域の医療機関と密接に連携し、医療チームとして最善の医療を提供いたします。
- 私たちは、常に医療技術の研鑽に努め、安心で安全な医療を実践いたします。
- 私たちは、地域に開かれた病院づくりと健全な経営に努めます。

社会医療法人 抱生会
丸の内病院

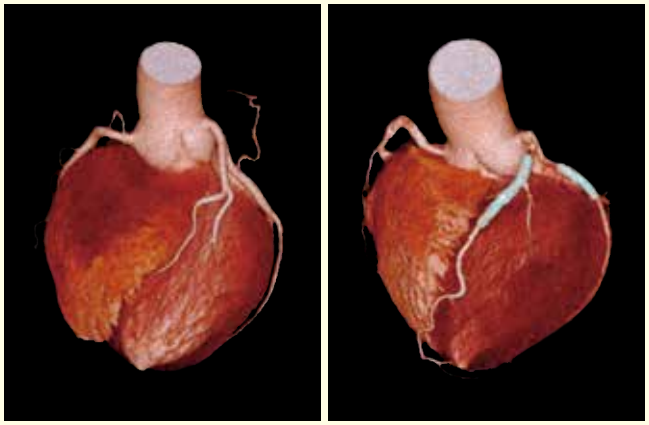
01 特集 320列面検出器CT Aquilion ONE Vision Edition導入

放射線課

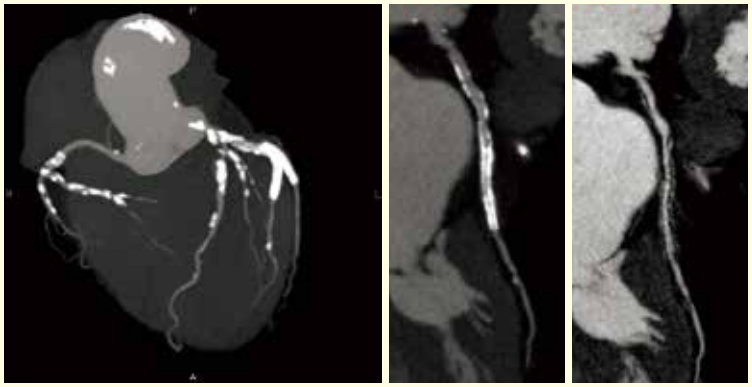
今回導入したCT装置は、0.5mmスライス×320列、1回転160mmの撮影範囲を0.275秒の高速撮影が可能です。160mm以内であれば寝台移動なしで撮影できるため、検査範囲によっては単純X線撮影のように短時間かつ楽な検査を提供することができます。撮影時間が短くなることで、造影剤の量や放射線被ばくも大幅に低減でき、患者さんに安心で安全な検査が実現しました。導入から4か月が経過し、CT検査機能の向上により予約枠を拡大し予約待ち期間の短縮、画像処理時間の短縮が図られ、迅速な画像提供と緊急検査にも柔軟に対応できるようになりました。導入後の前年度比は、四肢が最も多く160%、胸部で123%、腹部で133%、検査総数の前年度比は130%となりました。

当院は人工関節置換術（2014年実績:人口股関節置換術176件、人口膝関節形成術190件）を多く行っています。今までは人工関節インプラ

【写真１】
金属アーチファクト低減処理（SEMAR）両側股関節人工関節術後
上：処理前 金属周囲の画像の CT 値が
　　黒く抜けている
下：処理後 金属周囲組織が明瞭に



【写真２】 冠動脈 CT 3D 画像　右：左冠動脈ステント留置例



【写真３】
左：冠動脈MIP像　中：左回旋枝CPR像　右：左回旋枝サブトラクションCPR像
広範囲に高度の石灰化　左冠動脈にステントを認める
サブトラクション処理により石灰化、ステント留置部位の血管内腔評価が可能

【写真４】
肺気腫ボリューム解析
緑：正常肺領域
青：低吸収領域（肺気腫領域）
解析ソフトにて肺気腫領域の体積の算出が可能

ントからのアーチファクトにより周囲組織の評価は困難でしたが、新装置では金属アーチファクト低減処理(SEMAR:Single Energy Metal Artifact Reduction)が可能となりました。これにより、整形外科術後の症例において金属周囲の組織の評価に優れ診断能が向上しました。(写真1)

新装置導入に伴い、冠動脈CTを再開しました。最速1回転0.275秒で撮影が可能。技術面では冠動脈ステントや石灰化のサブトラクション処理、今後導入予定の心筋パーフュージョンにより心筋虚血の評価も可能となります。(写真2･3)また、今回同時購入した最新ワークステーションにより、多様な画像処理が可能になりました。現在、肺気腫ボリューム解析の準備を進めています。胸部単純CT画像をもとに解析を行うことができ、新たな検査をすることなく肺気腫領域の定量的な評価が可能となりました。(写真4)

地域の医療機関からのCT検査数の拡充のため、地域医療連携室が中心となり、当院CT検査の紹介や勉強会を行っています。当院連携医との定期的な勉強会を通じ、これらの新規CT検査内容の紹介とスムーズなCT検査依頼の連携が図られるよう努めていきます。今回導入したCT装置は中規模病院の特色を生かした適応性の高さで、院内だけでなく地域の医療機関からの検査も柔軟に対応できる装置と考えます。

CT検査ご依頼方法

1.地域医療連携室へご連絡下さい。
患者様のご希望日時と当院の予約状況を調整し、予約日を決定いたします。診察（CT検査の問診·ICを行います）とCT検査の両予約をとります。

2.検査予約券を貴院へFAXいたします。

3.撮影依頼票·読影依頼票（読影のご希望あれば）をFAXにてお送り下さい。
初めてご依頼される場合は原本をFAXいたしますのでそちらへご記入後、FAXをお送り下さい。

4.検査予約券と撮影依頼票を患者様へお渡し下さい。

5.検査当日
受付窓口12番へ予約券と撮影依頼書をお出し下さい。地域医療連携室職員が待合いへご案内させていただきます。

6.画像データはCDにて、後日貴院へお届けいたします。

【地域医療連携室】
●電話：0263-28-3010（直通）　●FAX：0263-28-3011（直通）
●受付時間：平日9:00～17:00/土曜日9:00～12:00 ご不明な点などございましたらご連絡下さい

02 特集 終夜睡眠ポリグラフィー（PSG） 検査課

終夜睡眠ポリグラフィー(PSG)の検査を平成27年11月から開始しました。

当院では従来、簡易型の機器を使用し睡眠時無呼吸症候群の検査を行っていました。今回導入した終夜睡眠ポリフラフィーは、以前より精密な検査が行え、睡眠障害の原因と程度を正確に判定する事が可能となりました。

一泊入院して頂き、様々なセンサーを取り付け睡眠や呼吸の状態、心電図、睡眠中の姿勢、下肢の動きなどの10種類ほどの生理機能を、同時に連続して一晩記録します。

※簡易型検査も従来通り行っております。

連載 職場のおしごと紹介

認知症看護認定看護師について

認知症看護認定看護師は、
認知症高齢者のケアの実践、ケアの体制づくり、
認知症の行動心理症状（BPSD）を悪化させる要因・誘因に働きかけ、
予防・緩和を行うほか、認知症の人にとって安心かつ安全な生活や
療養環境を整える役割を担っています。

認知症看護認定看護師
上嶋 育美

主な活動

- 外来、各病棟からのコンサルテーション対応（主な相談内容：せん妄、認知症評価、認知症の行動心理症状等）
- 外来患者・入院患者さんの家族からの認知症に対する悩みを一緒に考えサポートをしていく。
- 院外では、リバーサイドまるのうち（サービス付き高齢者住宅）へ訪問・相談対応。丸の内在宅支援センターからのコンサルテーション対応等。
- 精神科医師と共に依頼病棟のラウンド(第1・2木曜日/月2回)
- 認知症リエゾンチーム活動

認知症リエゾンチームの紹介

チーム目的

認知症リエゾンチームは、せん妄や、認知機能低下が要因となり併発する様々な症状、高次機能障害、意欲低下、身体機能低下、摂食障害など、日常生活に支障をきたしている患者さんを把握し、各専門職の視点で評価を行い、多職種連携で患者さんをサポートしていく、また、その方がその人らしい生活を継続できるよう、認知症の早期発見、早期対応、早期治療に繋げることを目的とするチームです。

チームの歴史

平成 27 年 4 月、チームを発足し、新前チームとして活動を開始しています。フレッシュほやほやチームです。真っ白なところから初め、戸惑い、不安も、課題も大きいですが、多職種協働で一歩ずつ進みながら、チーム活動の定着化を目指していきたいです。

チーム名にかける願い

「リエゾン」とはフランス語で「連携」や「橋渡し」を意味します。関連部署、各職種と連携を密にし、統合したサービスの提供ができることを願い「認知症リエゾンチーム」と命名しました。

活動スタイル

「困っている患者さんの早期把握と各職種連携で対応策を！」

チーム編成

医師／薬剤師／管理栄養士／言語聴覚士／作業療法士／社会福祉士／病棟看護師／認知症看護認定看護師

活動内容

① 患者さんの症状緩和を目指し、適切かつ具体的な対応検討の場として、カンファレンスを実施
② 認知症高齢者ケアを一致団結してサポートしていくためのチーム作りを目指し、定例チーム会の実施
③ 知識、技術向上に向け学会、研修会への参加・報告会
④ 他チームとの連携

今後の展望

超高齢化社会を迎え、このチームが担う役割は、今後ますます大きくなると考えます。認知症の中枢症状が及ぼす生活上の影響や、その方の視点、思いを細かに把握し、ニーズに応じたケアの提供を行っていきたいと考えています。

パーソン・センタード・ケアの概念である「認知症である前に一人の人間である。人として尊重されるケア。」を全職員が一丸となり、地域の認知症高齢者を支えていける病院にしていきたいです。

春のレシピ

ひじきと切り干し大根のサラダ

〈材料〉（4人分）

干しひじき …… 5g
醤油 …… 小さじ2（10g）
切り干し大根 …… 14g
きゅうり …… 80g
セロリー …… 80g
ロースハム …… 40g
★酢 …… 大さじ2（30g）
★オリーブオイル …… 大さじ1（13g）
★塩 …… 少々（1.2g）
★黒コショウ …… 少々

〈作り方〉

①ひじきは水でもどした後、流水でよく洗い沸騰したお湯で1分程度茹で、醤油で合えておく。
②切り干し大根はたっぷりの水でもどしてさっと洗い、水気を絞り、長い場合はカットする。
③きゅうりは千切り、セロリーは斜めスライス、ロースハムは細切りにする。
④★の調味料を合わせてドレッシングを作り、①～③の材料と混ぜ合わせて出来上がり。

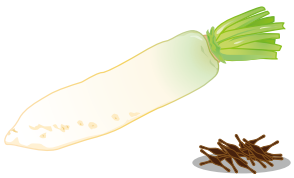
※ドレッシングはお好みで。酢16g、砂糖12g、醤油10g、ごま油2gのドレッシングもおすすめ。

〈栄養成分〉（1人分）

エネルギー …… 65kcal
鉄 …… 0.2mg(鋼の包丁、鉄釜加工1.0mg)
食物繊維 …… 1.3g
塩分 …… 1.1g

切り干し大根やひじきの鉄は少ない？！

鉄の多い代表的な食品といえばひじき、野菜の中では切り干し大根も鉄が多い食品とされていました。
しかし、2015年に改訂された食品成分表では、栄養成分に変化がみられました。
切り干し大根は、かつては鋼の包丁で切った後、天日干しで乾燥させていましたが、ステンレス製の包丁や乾燥器の普及で、鉄の含有量に変化がみられます。また、ひじきは鉄釜またはステンレス釜で加熱・乾燥させ製品になりますが、鉄が多く含まれるのは鉄釜で加工されたひじきのみであることがわかりました。
今後、鉄補給目的の場合には、鉄釜で作られたひじきかどうかを確認する必要がありますね。
製法によっては鉄の補給は期待できなくなりましたが、食物繊維が豊富なのは変わらないので、これまで同様、ひじきを含めた海藻類は毎日摂っていきたいものです。



インフォメーションギャラリー
Information Gallery

骨粗鬆症教室

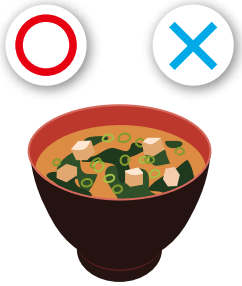
当院の骨粗鬆症教室は食事編、運動編、薬編があり、薬剤課、リハビリテーション部と協力し3ヶ月サイクルで行っています。食事編は管理栄養士がフードモデル（食品模型）などを用いて栄養素や食品について説明しています。運動編は実際に簡単な運動を体験していただき、理学療法士から運動時のポイントを説明し、薬編は薬剤師から薬の種類や働き、服用時の注意点について説明しています。
教室では皆さん話にうなずかれたり質問やご意見をたくさんいただいたりと、熱心にご参加されています。また、「とても勉強になった。友人にも話したい」「普段知っているようでよく分かっていなかった骨粗鬆症のことがよく分かった」などとご意見をいただいています。平成27年度は2月現在、延べ149名の方にご参加いただきました。

（診療技術部　栄養課　門脇）

減塩教室

高血圧症・心臓病・腎臓病などで塩分制限が必要な患者さん（当院で治療中の方）とご家族を対象に毎月1回開催しています。
循環器内科櫻井医師による高血圧に関する講義、濃度の異なる4種類のお味噌汁の飲み比べ、管理栄養士より塩分クイズやご家庭でできる減塩のコツの紹介を行っています。今年度は76名（外来11名、入院60名、付添5名）の方にご参加いただきました。
アンケートより、“減塩の大切さがわかりました”“実際に味噌汁を飲んで参考になりました”“改めて減塩頑張ります”等の感想をいただいています。塩分は視覚ではわかりづらく、減塩を意識していても実際にできているか判断が難しく感じている方もいるかもしれません。“減塩”といっても色々な方法があります。試食やクイズを通して、多くの方に減塩のコツを学んでいただけたらと思います。

（診療技術部　栄養課　野溝）



糖尿病教室

糖尿病の方、興味がある方を対象に毎月1回木曜日に実施しています。
教室内容は、糖尿病の食事療法の基本を紹介しており、具体的には「食物と血糖の関係」「必要カロリー」「食習慣〈嗜好品、外食含む〉」「食べ方の工夫」「合併症予防」等をテーマとし行っています。平成27年度は2月現在、53名(外来10名、入院43名)の方にご参加いただきました。
教室では「久しぶりの参加で、改めて気を引き締めて頑張ろうと思いました」「改めて食事療法の復習になり気持ちを入れかえて、取り組んでいきたい」等とご意見があります。また糖尿病の治療が長い方もいるため、「実生活で実践となると思うようにいかないのが現実です」という相談もあり、教室終了後も質問が多くあります。参加される方同士で、意見交換の場にもなっている印象です。今後の展望としては、より参加者のニーズに応えるため更に実践的な内容や具体的な食事調整方法も取り入れていきたいです。
食事の話以外にも、多職種にて教室を開催しています。詳しくは病院のホームページ or 病院スタッフまでお尋ね下さい。たくさんの方のご参加お待ちしております。

（診療技術部　栄養課　保科）

社会医療法人 抱生会
丸の内病院
広報　まるのうち　No.34
発行日／平成28年3月31日　発行者／社会医療法人抱生会丸の内病院　発行責任者／中土幸男
住所／〒390-8601 松本市渚1丁目7番45号　TEL.0263-28-3003(代)　FAX.0263-28-3000(代)
URL http://www.marunouchi.or.jp　E-mail kanri@marunouchi.or.jp